



ダイコンのトンネル栽培 とう立ちの遅い品種を選ぶ

トンネル栽培は晴天日には気温が

外気より高く、日中の気温を生育に
適切な湿度(15〜25度)に少しでも長
く保つことができます。さらに、20度
程度の高温はダイコンのとう立ちを
打ち消す動き(脱春化という)があり
ます。このように、トンネルとマルチ
の利用は生育促進と、とう立ちを回
避する効果があります。

一般地では、種まきは2〜3月、収
穫期は5〜6月となります。

【品種】

「つや風」(タキイ種苗)はとう立ち
が遅く、低温でもよく太る肌のきれ
いな品種です。他に「三太郎」(タキイ
種苗)や、「春光」(トーホク種苗)、「み
のり早生大根」(ニチノウ)などもお

すすめです。

【トンネルの作り方】

支柱の長さは、床幅70〜80cmでは、
挿し込む長さを加え、200cm程度
の長さが必要です。トンネルフィル
ムは、支柱の長さと同じ程度の幅を
使い、マルチフィルムは、農ポリの穴
開きで雑草防止には黒を選びます。

トンネルの土台となる支柱を60cm
間隔に挿し、フィルムの裾は土で埋め、
フィルムの上に押さえる支柱を挿し
込むなど耐風性を工夫しましょう。
(図1)。

【畑の準備】

種まきの2週間前に1㎡当たり苦
土石灰100gをまいて畑を深く耕
して、土を細かく碎きます。1週間前

に化成肥料(N:P:K=10:10:10)
150g程度と完熟堆肥1〜2kgを
施用します。

【畝立てと種まき・間引き】

幅70〜80cmの栽培床(ベッド)を作
り、マルチフィルムを早めに張って
地温を上げておきましょう。(図2)。
条間45cm 2条、株間27〜30cmとし、一
カ所4〜5粒まいて、1cm程度の覆
土をします。

1回目の間引きは本葉1〜
2枚までに、2回目は本葉4〜
5枚の頃にしっかりとした株を1
本残します。

【トンネルの換気方法】

日差しが強くなるとトンネ
ル内は30度を超えるため、換気
します。穴開きフィルムを使う
と、換気の手間が省けます。穴
なしフィルムでは裾を気温に
応じて開閉するか、またはフィ
ルムに穴を開け、次第に穴を増
やして換気量を大きくします

(図3)。3〜4月はさらに気温が上
がり、葉が茂ってトンネルの中が窮
屈になる頃にはトンネルを剥ぎます。

【収穫】

首の太さが8cmくらい、重さが1
kgくらいが収穫適期です。若取りして、
葉も利用しましょう。なお、とう立ち
が進むと芯が堅くなりますが、花茎
(とうの長さ)が10cm程度なら問題あ
りません。

彩・菜・栽

2021年
1月

図1 トンネルの作り方

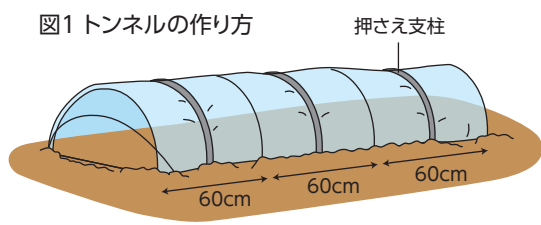


図2 畝立て

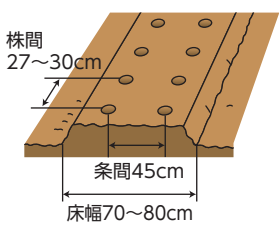


図3 トンネルの換気(穴開け)方法

